



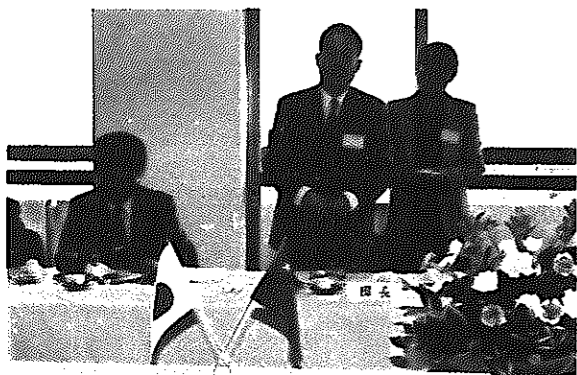
# 母子保健・家族計画の分野で交流

## 中国から計画生育視察団が来市

「母子保健・家族計画の分野で、日本と交流を図りたい」と、中国から計画生育視察団（王偉団長以下十一人）が九月五日から十八日まで日本の各都市を視察。九月九日には本市を訪れました。

つてきたかを学びたいと、今回の米日となったものです。視察団の一行は、九月九日午後一時三十分市役所に到着。四階の大会議室で市長はじめ保健会の役員、母子保健推進員などの関係者と意見交換を行いました。まず吉沢市長が市の概況及び母子保健事業について説明した後、中国側から「受胎調節で夫の協力はどうか」「母子保健事業の成果を上げるには、行政だけでなく組織の協力を

得て実施しているとのことですが、その組織はどんな仕組みで、どのような活動を行っているのか」などの質問が出されました。意見交換が終わってから、視察団側の「三世代世帯の農家を訪問したい」との希望で、高井興野の長谷川常吉さん、上塩俵の池浦利信さん宅を訪れました。



あいさつする王団長



視察団側から熱心な質問が...



農家を訪問する視察団一行



▼手話の技術を身につけ、早くろうあ者と会話できるようにになりたいと、みんな一生懸命です



ぬいぐるみや雑誌などを集め、チャリティー即売会を10月下旬に計画

### インタビュー



吉原 淑江さん 2年生

手話の技術を身につけようあ者と会話したい

今、手話講習会を受講しています

す。六月に白根小グラウンドで開かれた身障者体育大会のお手伝いに行った時、手話のできる人がろうあ者と、とても楽しそうに会話していたのを見て、私もできたらなとはじめたんです。

二人で、一人暮らしのおばあちゃんを訪ねています。昔の歌を歌ってくれたり、いろんな話を聞かせてくれます。今度訪問した時は、おばあちゃんが大好きな食べ物を作ってあげたいと思っています。ボランティアの輪を広げ、だれもが幸せな暮らしができるような社会にと願っています。私たちも



長井 恵さん (写真右) 1年生  
真保久美子さん (左)

「私たちのやってきたことは、まだまだボランティア活動といえないような未熟な活動にすぎません。でも、これを軌道にのせ、後輩たちに引きつぎ、家庭クラブのボランティア活動が活発に続いていくことを願っています」と、三年生の小林直美さんは話していました。

### 小さな善意から大きな輪に

り、指人形を製作中です。できあがったら保育園などを慰問し、子供たちに指人形劇を見せてあげるそうです。「テレビ時代の中で育ってきている子供たちに、自分たちで作った人形で、お話しすることもできるんだということを知ってほしいんです」と、製作にあたるクラブ員は話します。

また、ろうあ者との交流を持つため、青年教育センターで週一回開かれている手話講習会に、二十三人が受講しています。「手話の技術を身につけて、早くろうあ者と会話できるようにになりたい」と、みんな一生懸命です。

このほか、老人ホームなどの施設慰問を、十二月に計画しているそうです。